京都府青少年育成協会会長奨励賞

「自分次第」

向日市立西ノ岡中学校　3年
北畑美優

「楽しい」って何だろう？「楽しい」と思える時はいつなんだろう。その頃の私にはまだ分からなかった。

中学一年生の頃、正直私は体育祭が嫌いだった。楽しくないし面白くもない。ただただ参加したくなかった。一年生から三年生が同じチームになり、「教え合い」「助け合い」「協力し合う。」その頃は、全てが嫌いだったので私にとってとても面倒なことだった。

何でやらないといけないの？

何のためにやらないといけないの？意味が分からなかった。毎日の練習が嫌で嫌でたまらなかった。そんな時、とても楽しそうに練習している三年生の姿が私の目に焼きついた。その三年生を見て私は分かった気がした。楽しく練習している人は楽しもうとしているから楽しいんだと。楽しむことができなかった中学一年の体育祭は、悔いが残る形で終わってしまった。

一年後、私は昨年学んだことを実践してみることにした。思うとなんだかやる気がわいてきた。そして、「今度こそ悔いのない体育祭にしたい。」そう思った。体育祭には毎年恒例の色別大縄跳びがあり、この種目は〝一致団結〟がとても重要な種目である。初日はクラスがまったく団結していなくて、とても悩んだのを覚えている。クラスのみんなで何回も何回も作戦を練って、練習して、試行錯誤を重ねた。それは、私にとって苦痛なことではなく、とても楽しかった。なぜなら、クラス全体が徐々に成長している過程が目に見えたからである。このことから、成長すること、成長が見えるということは「楽しい」につながっていると言えるのではないだろうか。

本番当日、私達は緊張と不安でいっぱいだった。そんな中、クラスのみんなで「自分たちならできる。」「みんなで一致団結すればできる。」と励まし合った。私はこの時のクラスから、〝仲間の良さ〟を感じた。そして、なんだかほっこりした気持ちになった。仲間がいるから頑張ることができるし、目標に向かって一緒に進むことができる。それに何より、安心する。仲間の存在がいかに大切か、身に持って感じた瞬間だった。

もう、大縄跳びがそこまで迫ってきている。いつもは、この時間が一番緊張する。「うまくいくかな」とか「自分のせいで足を引っぱってしまったらどうしよう」とかいろいろ考えてしまう。でも、今回は違う。なぜなら、一緒に励まし合った仲間、これまでの練習を頑張り、楽しんだ自分がいるからだ。

ついに、大縄飛びが始まった。いよいよ私たちの番だ。心を整える暇もなく、慌ただしく始まった。私たちは初めより一致団結し、これまで積み重ねた練習通り頑張って、楽しんで跳んだ。しかし、記録は更新されることなく終わった。悔しい気持ちも少しあったが、やり切きった感じでとても清々しい。結果は良くなかったけれど、私にとってこの日の大縄飛びは楽しい思い出になった。

「楽しい」と思える時は、自分から楽しもうとしている時、成長してできなかったことができた時、仲間と一緒に頑張った時だ。「楽しい」と思えるのは成功した時や達成した時ばかりではない。失敗しても、達成しなくても、自分の中で頑張れたこと、みんなで力を合わせたことが思い出となって心に残るだろう。失敗したことも、達成しなかったのも大切な思い出。それが楽しかったか、楽しくなかったかは、そこに至るまでの「自分次第。」